

イスラム都市における階層と統一の観念

中世イスラム都市カイロに関する研究

エルワギ エハブ モハメド アリ

論旨

本論文は、イスラムの教義に基づくイスラム教徒の要求を体現する、イスラム建築の主要な性質を明らかにすることを目的とする。イスラムの共同体には、宗教の教義・伝統・文化に関連して、建築に対する特別な要求がある。なぜなら、イスラムというのは、単なる宗教ではなく、生活全体に関わるものであるからである。

本論文では、イスラム教徒の社会や生活環境に対して、イスラムの伝統が確立した本質的原理と枠組を探求することを目的とする。

多くの先行研究は、伝統的な規定をただ羅列するのみといった傾向があり、この伝統の社会的・精神的側面を明らかにしていない。

よってそれらは、例えば、なぜ、どのようにイスラムが社会的交流（パブリックスペース）とプライバシー（プライベートスペース）を必要としたかといった問題や、精神的要求に関連する伝統的形態になぜ共通するものがあるかといった問題を説明できない。

本論文の目的

- ・パブリックとプライベートな領域に分割された社会的空間の背景にある、一般的な社会文化的枠組を見出し、イスラム空間の階層性の概念を理解可能にする。
- ・伝統的形態の創造の背景にある、一般的な精神的枠組を見出し、象徴的意味・中心性の概念・神による統一についての深い理解を可能にする。

研究方法

本論文は、次に挙げる三つの本質的かつ実証的な論点を中心に据える。

1. イスラムと環境の関係と、イスラム都市に表出するそれらの関係の結果を整理する。
2. イスラム都市の空間における階層と統一の観念について、社会文化的・精神的なイスラム信仰の影響を明らかにする。
3. イスラム都市カイロの空間の時代による変遷を通して、事実にもとづいた検討を行い、表出した観念を見出す。

論文構成

本論文は三部構成とし、その前に序論を設ける。

第1部：理論的・歴史的研究

最初の二つの章では、伝統的イスラム都市・建築・都市空間の分野で著された先行研究を概観する。

第1章は三つの節によって構成される。第1節は、伝統的な社会的・精神的原則の基礎となったイスラム法であるシャリーアの本質や起源に関する議論を扱う。第2節では、年代的・地理的原理にもとづいたイスラム建築の歴史を概観する。第3節では、自然的・都市的環境の発展に関するイスラムの視点を扱う。

第2章は二つの節によって構成される。第1節では、イスラム都市の基本的な概念を検証し、

都市の構造に影響を与えたイスラム教徒の信仰の主要概念を明らかにする。第2節では、イスラム建築や都市空間を概観することで、イスラム都市におけるイスラム的空間の概念の定義について扱う。

第2部：分析的研究

第2部は、二つの章によって構成される。ここでは、伝統的イスラム都市空間を分析する枠組を提案する。

第3章は、社会文化的枠組に関するものである。この枠組の中で、イスラムの生活全般において主要な源泉となり典拠となるシャリーアを用いることで、イスラム都市空間の階層性の概念・原則を明らかにすることができる。それらの原則は社会・近隣・家族・個人という四つの社会的規模と、彼らの都市のゾーニングと土地利用に関する考えで説明される。ここでは、建築や都市のオープンスペースにおける空間の階層（パブリック・セミパブリック・セミプライベート・プライベート）の概念の分析を通して、伝統的形態の概念に焦点を当てる。

第4章は、精神的枠組に関するものである。この枠組の中で、伝統的イスラム建築空間の象徴主義の真理を明らかにすることができる。それはまた、スーフィー（イスラムの神秘主義）の影響と、それにおける神による統一に関する概念について扱うことになるであろう。この章では、形態の創造の過程に関するスーフィーの信仰と宇宙論的解釈を分析することにより、イスラムの伝統的形態の創造の背景となる一般的な象徴的枠組を、三つの節を通して明らかにしようと試みる。第1節では、伝統的イスラム建築に関して一般に知られている三つの基本的原則（中心・垂直軸・水平方向）を扱う。第2節では、空間・形状・表層の概念が必然的に形態の創造の過程に関わることを、手短かに概観する。第3節では、イスラム的空間で使用される主要な建築的要素の内面にある象徴的な意味を明らかにしようとする。

第3部：実際的研究

第3部では、歴史的ケーススタディの現地調査と視覚的資料から集められたデータの分析を行う。ここは、ケーススタディを行い、伝統的イスラム都市カイロの空間分析から提案した枠組を検証する二つの章によって構成される。

第5章では、イスラム都市カイロの歴史的形成を概観し、社会文化的枠組と精神的枠組による分析から、カイロの空間における階層と統一の概念を見出す。

第6章では、総合的枠組に関するものである。社会文化的枠組と精神的枠組を、どのように統合するかに焦点を当てる。なぜなら、これまでの枠組ではイスラム空間を静的空間として扱うが、現実のイスラム都市空間は動的空間であるためである。つまり、本章の目的はイスラム都市カイロの空間の時代による変遷を通して、空間体験とその意味を扱うことである。それは、都市空間（オープンスペース）における空間の階層性と連続性と、建築内部空間におけるアプローチや室間移動の経験の分析により解明される。

そして、第7章は、イスラムの歴史的空間を扱うために、本論の各部分から抽出した結論と提言で構成される。